鹿児島工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語ＶＡ（３）

科目基礎情報

科目番号	0121	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	都市環境デザイン工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	前期:2
教科書/教材	自主教材		
担当教員	嵯峨原 昭次		

到達目標

１．毎回説明される11種類の演習方法を理解して、それをもとにリスニング・スピーキング演習ができる。
２．11種類の実践演習を通して、最終的に、スピーキングテストで担当教員と英語で話すことができる。
３．将来海外で生活するうえで必要なコミュニケーション能力（英語力・異文化理解）を習得することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	読んだ内容について、その情報や考えを、過不足なく全て要約できる。	読んだ内容について、その情報や考えを、概ね要約できる。	読んだ内容について、その情報や考えを、要約できない。
評価項目2	聞いた内容について、その情報や考えを、過不足なく全て要約できる。	聞いた内容について、その情報や考えを、概ね要約できる。	聞いた内容について、その情報や考えを、要約できない。

学科の到達目標項目との関係

本科（準学士課程）の学習・教育到達目標 2 本科（準学士課程）の学習・教育到達目標 2-b 本科（準学士課程）の学習・教育到達目標 4 本科（準学士課程）の学習・教育到達目標 4-b

教育方法等

概要	英語を聞き取れ、話せるようになる11種類の演習方法を説明して、それに基づき、実践演習をして、最終的に、スピーキングテストで英語が話せるようになることを目指して、学生に積極的に演習に参加してもらいます。グローバル社会の中でも使える英語力の養成を目指します。
授業の進め方・方法	4年次までに習得した英語（語彙・文法・読解等）を踏まえ、スピーキングの力を養う。この授業では、それを達成するために、11種類の演習方法を紹介して、それに基づいて、演習をしてもらいます。演習への積極的な取組みを期待します。
注意点	本科目は学修単位〔講義Ｉ〕課目であるため, 指示内容について60分程度の自学自習（予習・復習）が必要である。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション（授業内容説明、総合英語学習理論）	授業の進め方と授業内容・方法を理解できる。
		2週	演習①（英語音声理論（リズム））	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		3週	演習②（強弱読み、Following）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		4週	演習③（速読理論）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		5週	演習④（要約[Summary]）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		6週	演習⑤（Short Speech）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		7週	演習⑥（Speech）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		8週	演習⑦（Speaking (1) 絵カード説明）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
	2ndQ	9週	演習⑧（Speaking (2) 瞬間英作）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		10週	演習⑨（Speaking (3) on the spot）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		11週	演習⑩（Survival English）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		12週	演習⑪（異文化コミュニケーション）	演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。
		13週	Speaking Test (1)、レポート作成	前半グループの学生がSpeaking Testで英語を話すことができる。
		14週	Speaking Test (2)、レポート作成	後半グループの学生がSpeaking Testで英語を話すことができる。
		15週	試験の答案の返却・解説	試験において間違えた部分を理解できる。
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0